

特集

未来へ響け 荒磯太鼓

あらいそ

自分を見つめる、若者たちの挑戦

平成5年、村は村民の手で新しい郷土芸能を育てようと、「ふだい荒磯太鼓」を誕生させた。その後、荒磯太鼓は村内外でのイベントに出演し、村の新しい郷土芸能として活動してきた。しかし、脚光を浴びるその裏で後継者不足に直面していた。そんな中、若者が仲間を誘い合い、荒磯太鼓のメンバーに加わった。

厳しい稽古に耐え、舞台上で発表を重ねるたびに、彼らは成長し、輝きを増してきた。

だが、和太鼓に燃える彼らには村の郷土芸能を継いでいるという意識はなかった。

「和太鼓が好きだ。もっとうまくなりたい。見る人、聴く人を感動させたい」。ただそれだけなのだ。

そんな彼らだがこの先10年、20年と活動を続けたら……。

まさしく「村の伝統芸能」となるに違いない。

それは村民の光となり、村の希望となるのではないか……。

すさまじい和太鼓の響きと、元気な笑い声が、今日も稽古場にこだまする。

未来に響く若者の新たな鼓動を追った……。



鳥居地区にある郷土文化伝習施設。
この稽古場で、8人の若者たちは、
全力で和太鼓に向かう